

7	デジタルサービス局	都市のデジタルツインの実現
事業概要	<p>デジタルツインの社会実装に向けた実証プロジェクトの実施や、有識者による検討会の開催、構築した庁内データ連携基盤の活用を通じて、令和12年までに5つの分野（防災・まちづくり・モビリティ・環境・産業（観光等））においてサイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）の融合によるデジタルツインの実現に向けた取組を推進する。</p> <p>※ デジタルツイン：現実空間で収集したデータを仮想空間に3Dで「双子（ツイン）」のように再現し、高度な分析、シミュレーションを可能とするもの</p>	
これまでの経過	<p>令和2年度に「3Dビジュアライゼーション実証プロジェクト」事業を実施し、令和3年度からは「東京都デジタルツイン実現プロジェクト」を立ち上げ、デジタルツインの実現に向けた取組を本格化させた。令和3年6月には、有識者等で構成する「東京都における『都市のデジタルツイン』社会実装に向けた検討会」を設置し、年度内の計4回の開催の中で、デジタルツインの有用性の検証や今後の目指すべき姿などについて議論を行い、その成果として「デジタルツイン社会実装に向けたロードマップ」の初版を策定した。令和4年度は、庁内の地理空間データ等を局横断的に連携するための「デジタルツイン庁内データ連携基盤」の構築を行った。令和5年度は、ベータ版事業として3件のテーマで技術実証をするとともに、有識者検討会を開催し、ユースケース創出を踏まえた「ロードマップ」の更新について議論を行い、年度末に「ロードマップ」を第3版へと更新した。</p>	
現在の進行状況	<p>令和5年度に本格稼働させた「デジタルツイン庁内データ連携基盤」について、庁内で保有する地理空間データを今年度から来年度にかけて順次掲載し、共有・活用を進めている。</p> <p>また、デジタルツイン3Dビューアについて、スマートフォンでもスムーズな表示ができる簡易版を今年度中に構築するなど、利用者の利便性向上につながる取組を進めている。</p> <p>さらに、今年度からの新たな取組として、プローブデータなどの民間が持つ地理空間データについて、庁内事業における利活用検証を行っている。</p> <p>点群データの3Dビューアへの掲載及びオープンデータ化については、令和5年度の高摩・島しょ地域分につき、都市整備局が取得した区部分についても整備を進めている。</p> <p>また、令和6年1月に発生した能登半島地震への対応として、石川県が保有する点群データ等を加工して都の3Dビューアで可視化するなど、現地の復旧・復興活動の支援に向けた取組を行っている。</p>	
今後の見通し	<p>令和12年のデジタルツインの実現に向けて、庁内データ連携基盤の運用、都庁内外のデータ連携先の拡大及びデータの更新を継続して行う。</p> <p>また、引き続き、都市整備局と連携し、デジタルツインの基礎となる3Dモデルデータについて、区部・高摩地域分データの3Dビューアへの掲載を進めていく。</p> <p>さらに、能登半島地震への対応については、引き続き県のニーズを確認しながら、災害前後の状況比較といった利活用の方法等の提案やデータの追加など、支援を継続していく。</p>	
問合せ先	デジタルサービス局 デジタルサービス推進部 デジタルサービス推進課	電話 03-5320-7622